神秘学ポエジー 風遊戯 photopos 136

【神秘学ポエジー～風遊戯 第 272集】 photo ヴァージョン

photopos 3376-3400

《2023.12.6～ 2023.12.30》

神秘学遊戯団

☆photopos-3376　2023.12.6

この世に
生まれてきたのは
変わりつづけるためだ

変わりつづけているから
いつもあたらしい
わたしになることができる
おなじわたしはどこにもいない

変わりつづけるわたしと
変わりつづけるあなたと
そして変わりつづける世界は
こんなにも自由だ
不自由を嘆くことができるほどに

変わることは
そこに意味が生まれることだ
変わろうとしないことさえ
意味となるように

一なるものは不変であるが
そこに差異は生まれない

意味とは差異だ
差異のないところに
意味は生まれない

わたしたちは
意味を生み出そうとして
変わりつづける旅人だ

そしてひとときこの世を生きて
つねに新たな意味をつくりだす

※愛媛県久万高原町・八釜の甌穴群にて

☆photopos-3377　2023.12.7

私は
私の中心で
私という現象を
生み出しているが

私はほんとうは
どこにいるのだろう

観察するのだ

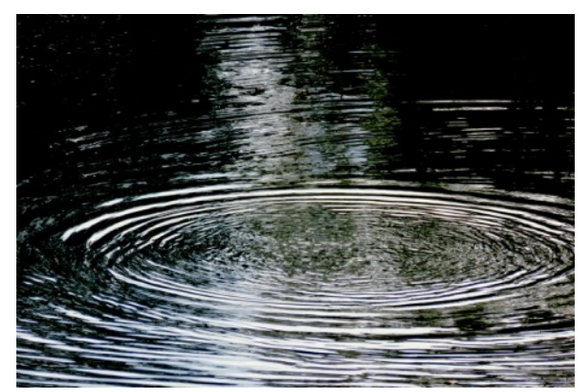
見るもの
聞くもの
じぶんが行っていること
まわりで起こっていること
そんなみんなをひとつひとつ

そしてそれらから
「私」を外してゆく

夢を見ている「私」を
そこで起こっている世界を
観察するように

すると
私という現象として
生まれ続けていた波紋が
次第に消えてゆくのがわかる

私はほんとうは
どこにいるのだろう



※愛媛県伊予郡砥部町・通谷池にて

☆photopos-3378　2023.12.8

みんながそうしているときは
それを疑う

なぜそうしているのか
わかるまでは
おなじことをしない

そうしたくなければ
しないでいる

わたしがそうするときも
それを疑う

なぜそうするのか
わかるまでは
しないでいる

自由のために

みんながそう考えているときは
それを疑う

なぜそう考えているのか
わかるまでは
おなじ考えかたをしない

そう考えたくないときは
ほかの考え方を見つける

わたしがそう考えているときも
それを疑う

なぜそう考えるのか
わかるまでは
その考えにしたがわないでいる

自由のために

※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3379　2023.12.9

論理は
それが成り立つところでしか
論理であることはできない

論理が変われば
正しさも変わる

理論にしがみついて
そのなかで生きていると
もう外には出られなくなる

理論が変われば
それが描く世界も変わる

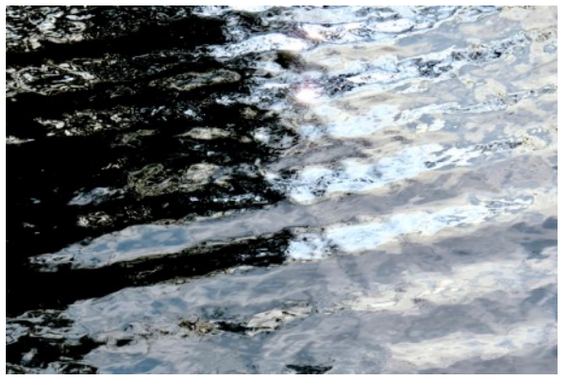
感情や感覚にも
論理があり
それなりの理論もあるだろうが

ときにはその外へと
手をのばしていけば
世界はひろがっていく

私は
私であるところでしか
私であることはできないが

私の外へと出られるならば
あるいは
私が私である源を知れば

私という現象が
描き出しつづけている
その魂の秘密に
近づくこともできるだろう



※愛媛県伊予郡砥部町・通谷池にて

☆photopos-3380　2023.12.10

人は
何によって
その人となるのか

遺伝子や
社会環境だ
とする者もいるが

ひとは
数式に代入された
数ではないから
代入されたとしても
答えは同じにはならないだろう

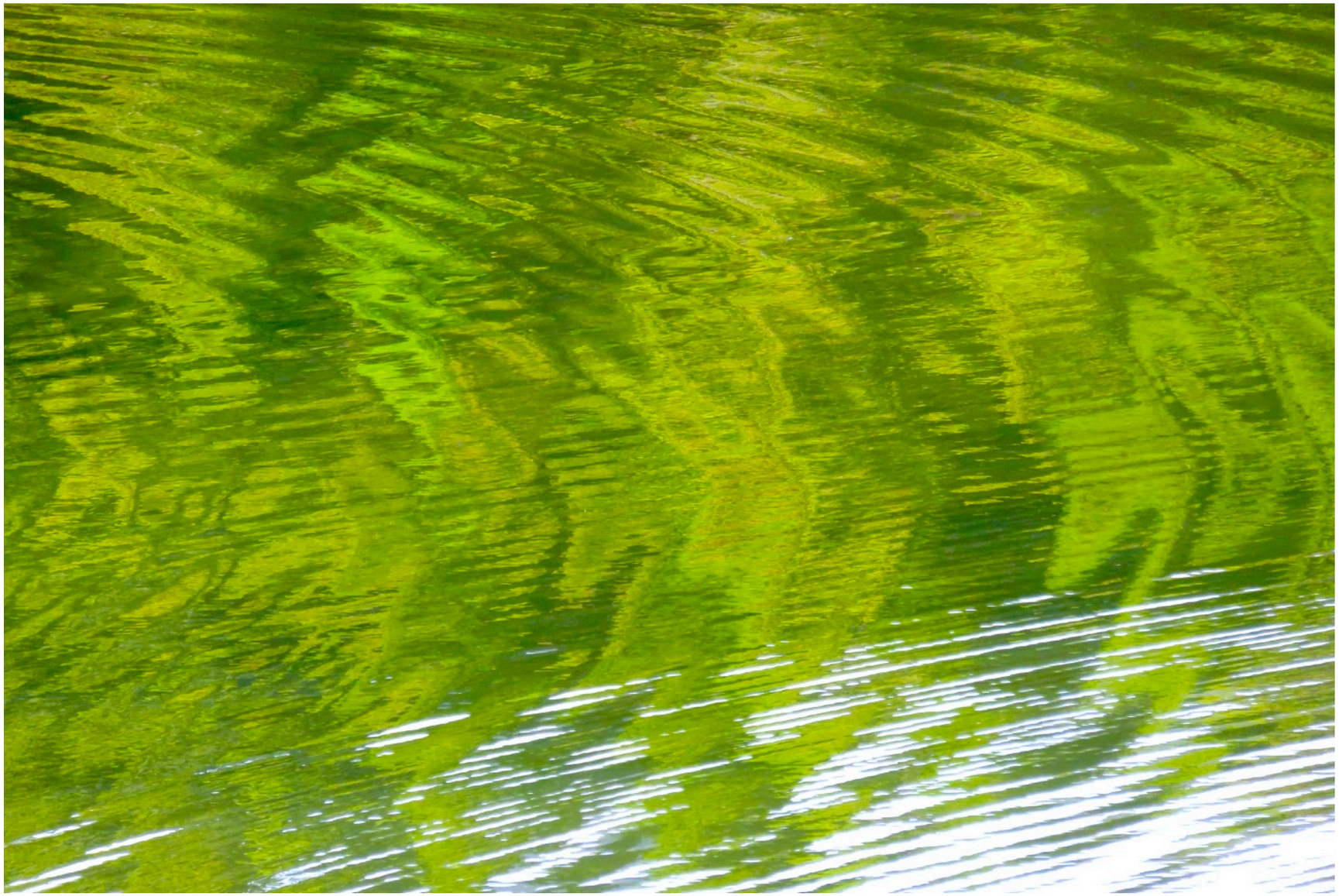
それらは
ただの乗り物だ
という者もいる

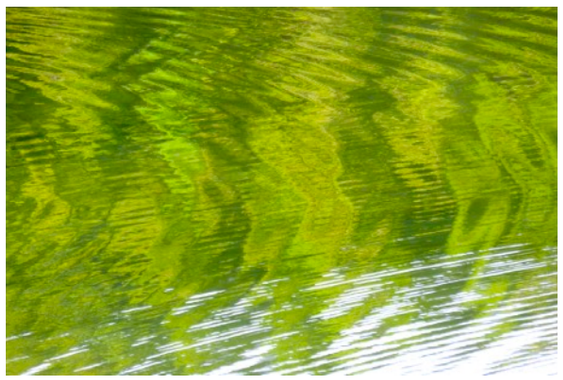
ならば
人そのものが
何かの存在の
乗り物なのかもれない

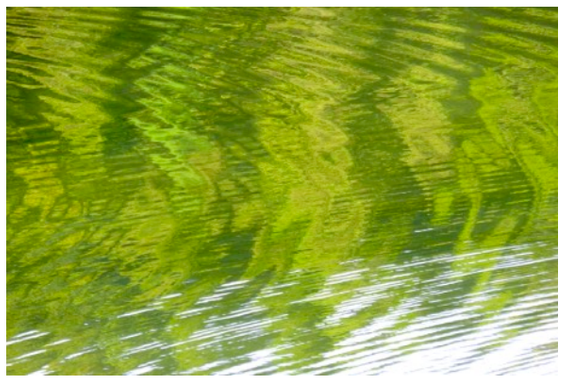
乗り物としての人を
どうやって選んだのかを
問いたくなってもくる

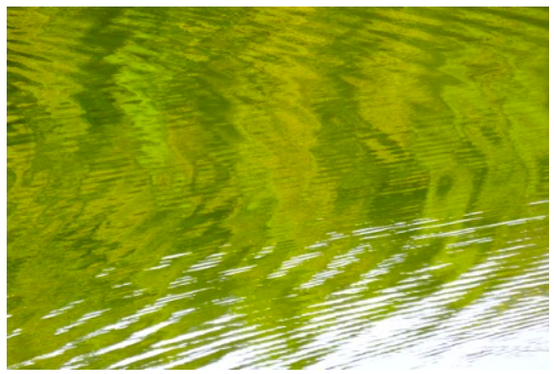
ならば遺伝子や社会環境も
それはそれで選んできたもので
それらとともに
それらを変えていきさえしながら
なんとかやっていくしかなさそうだ

ときに遺伝子を呪い
社会環境を呪いながらも
おしまいに
それらを笑い話にさえできるならば
深い智慧を得て幸福に生きられる









※高知県日高村・めだか池にて

☆photopos-3381　2023.12.11

名は
体を表す
というが

名づけ
名づけられることで
ひとはひととなり
同時に
名に縛られることになる

ひとに
名づけられると
その名を表すような
じぶんにさせられ

ほんとうの名があると
ひとはその名によって
支配されることにもなる

わたしはわたしだ
名ではないから
ペルソナとしての名は
わたしの変化とともに
変えていくのが生きやすい

名に縛られず
みずからを名づけ
その名を遊ぶ
そんなわたしでありたい

※高知県日高村・めだか池にて

☆photopos-3382　2023.12.12

雄弁のために
言葉が
伝わらないことがあるように

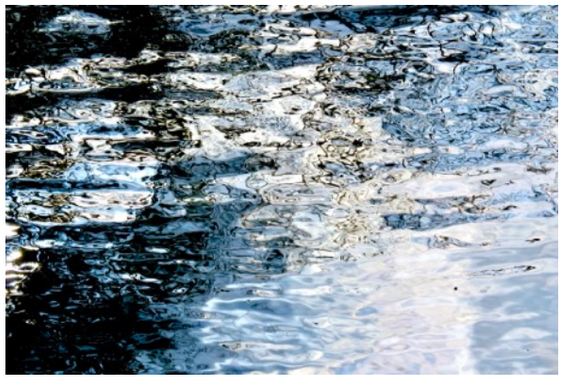
配慮のために
心が
鎖されることがある

正しさばかりを求めることで
道が
見えなくなることがあるように

光で照らすことで
知ることが
阻害されることがある

理論のために
世界が
限られてしまうことがあるように

教えることで
学ぶことが
できなくなることがある



※愛媛県伊予郡砥部町・通谷池にて

☆photopos-3383　2023.12.13

言葉という
道化があらわれて
モノが
名づけられていく

モノは名ではないが
名づけられると
その名で呼ばれはじめ

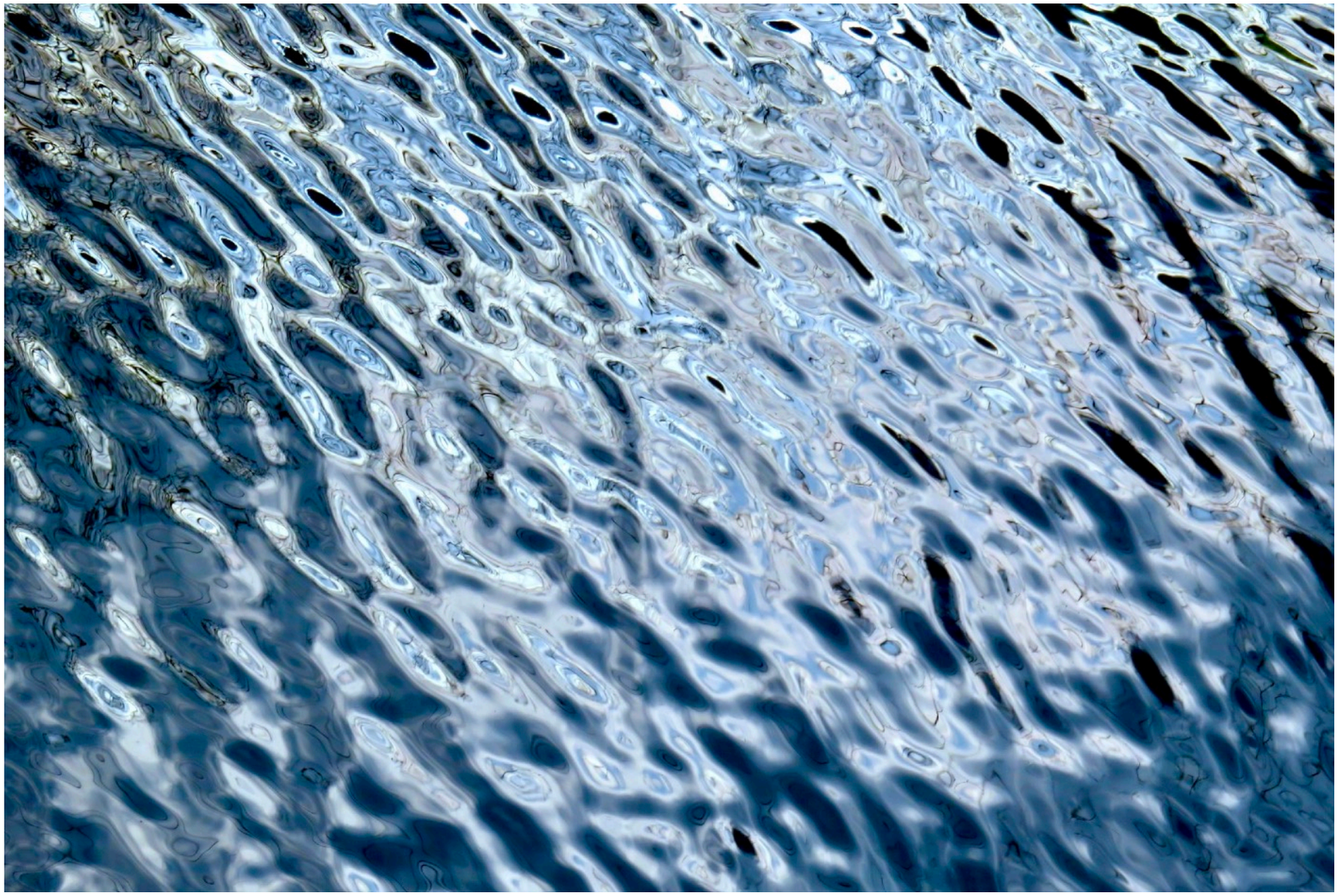
モノなきときにも
名は
その名を呼ぶ者のなかで
一人遊びをはじめる

名を指さすことはできない
名はどこにもないからこそ
わたしたちのなかで
意味を生み出しながら
その意味に閉じ込められていく

わたしも
名づけられることで
わたしでないところでさえ
わたしを演じはじめるが

意味に縛られ
そのなかに
閉じ込められそうになるときは
名から自由になろうとする

ときに名を変え
ときに名無しにさえなろうとしながら



※愛媛県伊予郡砥部町・通谷池にて

☆photopos-3384　2023.12.14

世界から
離れるための
言葉ではなく

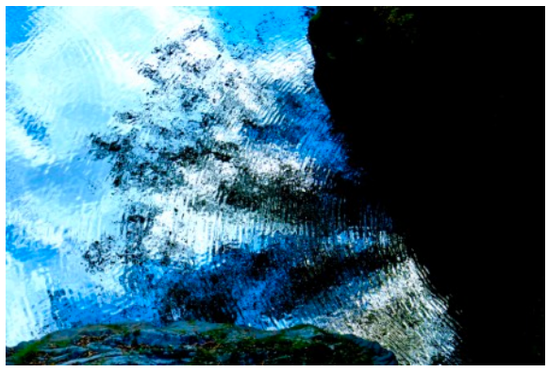
世界と近づき
ともに語りあえる
言葉を

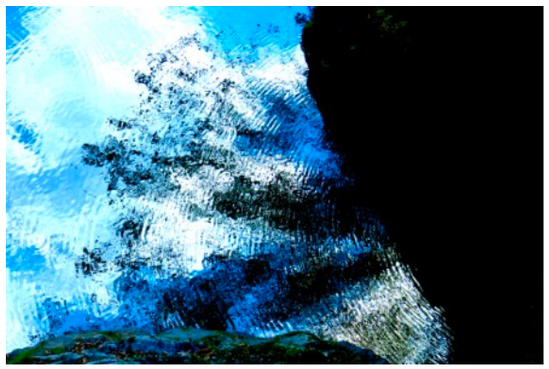
世界を
切り分ける
意味ではなく

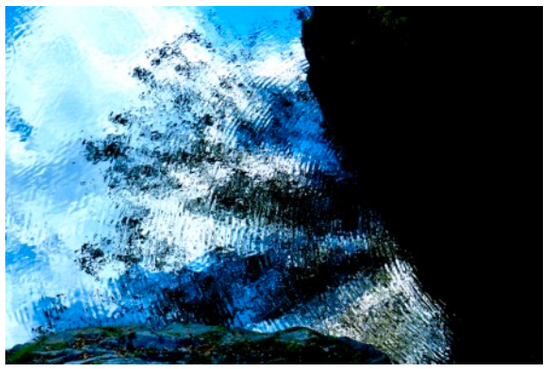
世界と結び
ともに応答しあえる
意味を

世界を
使う
手ではなく

世界と遊び
ともにつくりあえる
手を







※愛媛県久万高原町・八釜の甌穴群にて

☆photopos-3385　2023.12.15

その船には
岸辺はない

その船は
どこにもない場所へと
向かっているから

けれど
どこにもないはずの
場所だからこそ
漕ぎ出そうとするのだ

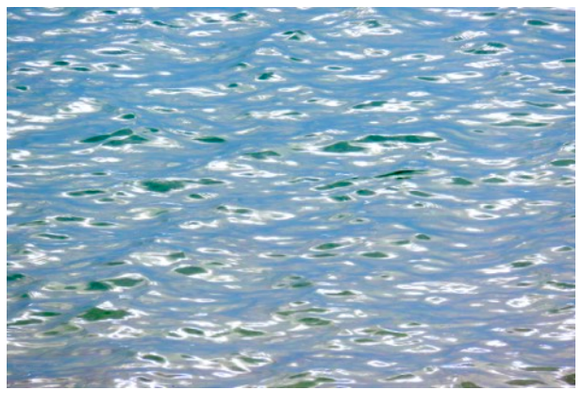
理想という
どこにもない場所を求めて

わたしには
あるべき姿がない

わたしは
だれでもないわたしを
求めているから

けれども
だれでもないはずの
わたしだからこそ
求めようとするのだ

理想となった
だれでもないわたしを求めて



※愛媛県松山市北条・波妻の鼻にて

☆photopos-3386　2023.12.16

ひとは
タイムカプセル

生まれてから
歳を重ねるごとに
収められている力のヴェールが
ひらかれてゆく

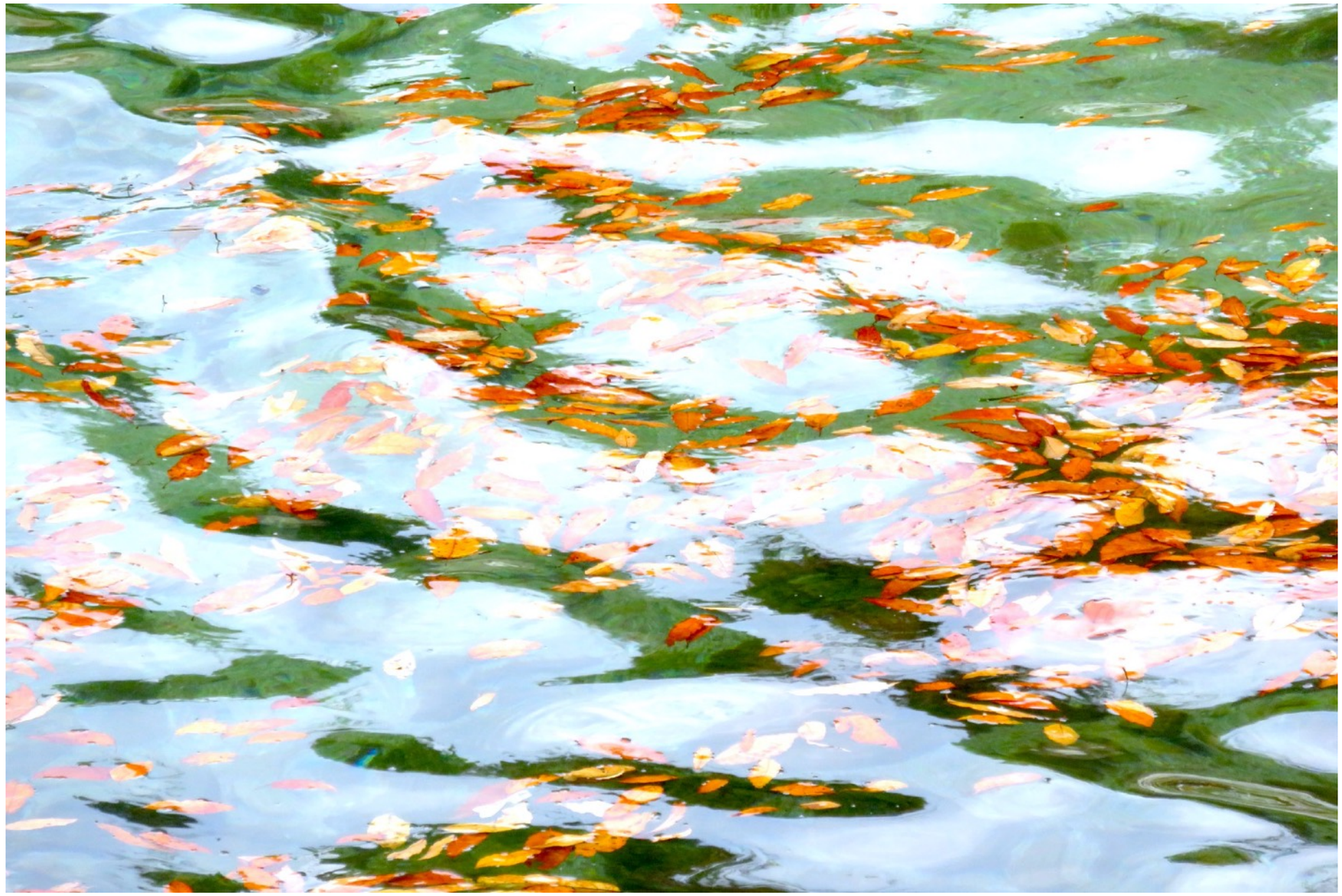
生まれてくるとき
最初のヴェールはひらかれ
からだは育っていく

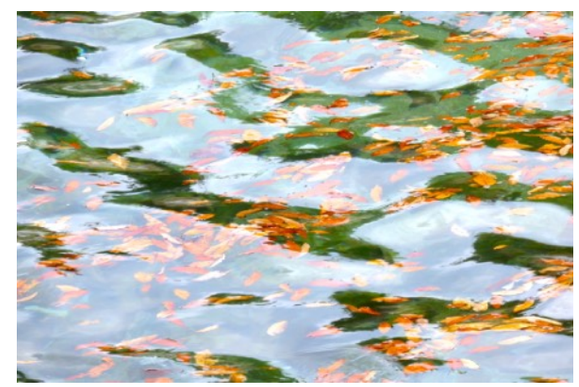
そして
ひとつひとつ
ベールをひらいていきながら
ことばを覚え
こころを育てていく

やがて
からだは衰えていくが
こころのヴェールは
そこからあらたな秘密をひらいていける

ひらかれることにも
ひらかれないまま
閉じていることにも
魂の秘密が隠されている

ひとという
タイムカプセルを
どこまでひらいていけるか
自由がそこで試される





※愛媛県松山市北条・波妻の鼻にて

☆photopos-3387　2023.12.17

見ることは
光の手で
ふれること

生まれて
はじめてふれたもの

かけがえのないはじまり

いちばん
どきどきしてふれたもの

ふるえるほどのときめき

光の手は
かぞえきれないものに
ふれつづけている

ふれることで
世界とむすばれるために

やがて
さいごにふれるもの

ふれることで
世界を閉じ
あらたな世界へとむかうために

※愛媛県松山市北条・波妻の鼻にて

☆photopos-3388　2023.12.18

もう
こわがらなくて
いいのだ

おわりは
はじまりだから
ただ今を生きるだけ

もう
求めなくて
いいのだ

愛することは
愛されることだから
ただ愛するだけ

もう
競わなくて
いいのだ

負けることは
勝つことだから
ただ駆けるだけ

もう
苦しまなくて
いいのだ

苦しむことは
喜ぶことだから
ただ心を遊ばせるだけ

※高知県四万十市・黒尊渓谷にて

☆photopos-3389　2023.12.19

生きることが
苦しいのは
この世こそが
異界となっているからだ

その現実を疑わぬまま
日常化するところに
錯誤は生まれ
現実はヴェールに覆われる

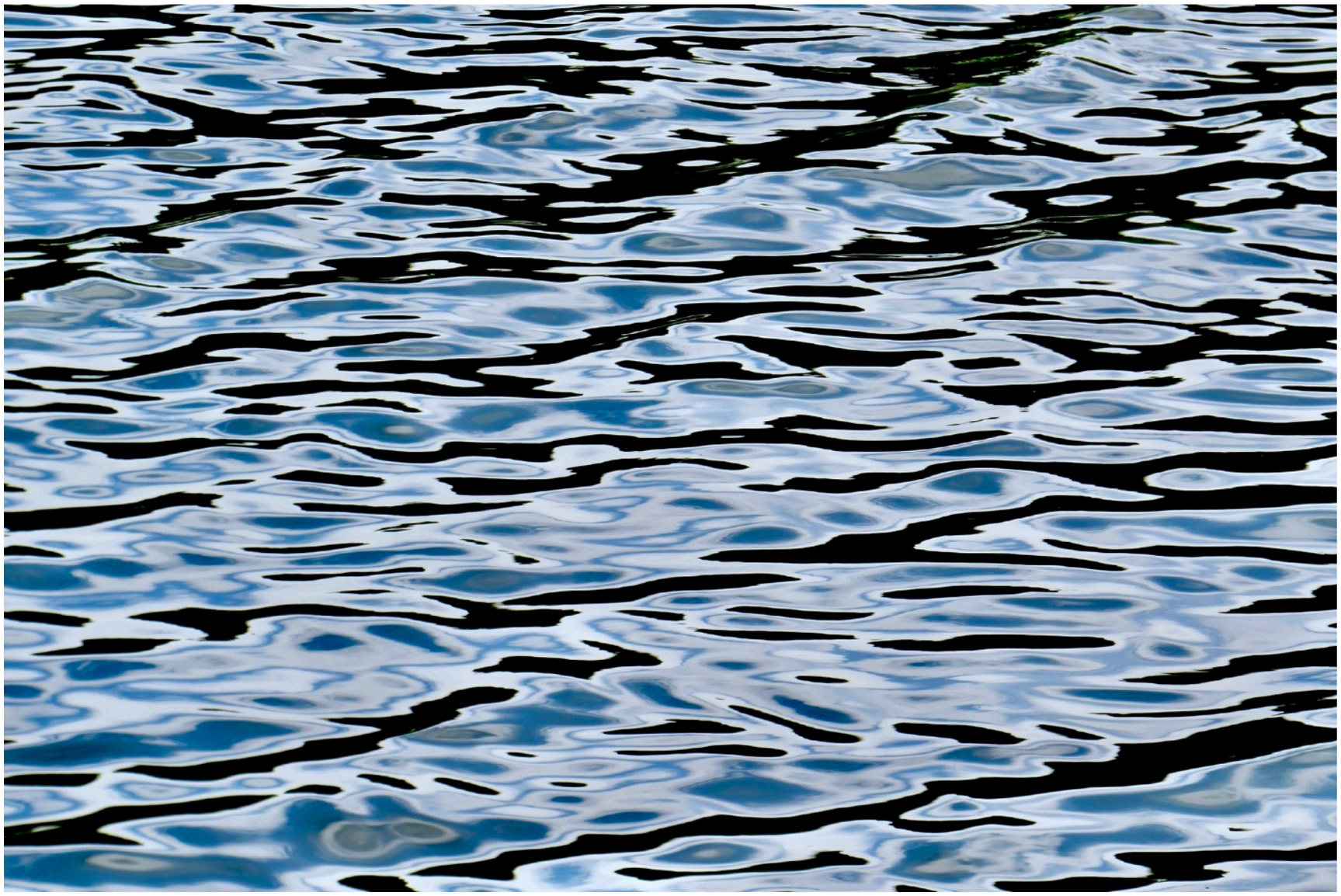
錯誤する眼が
世界を異界にしているのだ

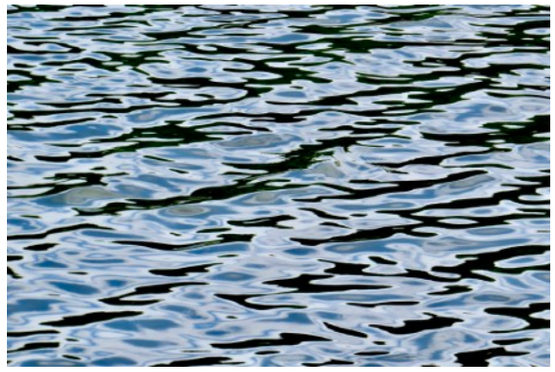
錯誤は錯誤を生み
目覚めを遠ざける

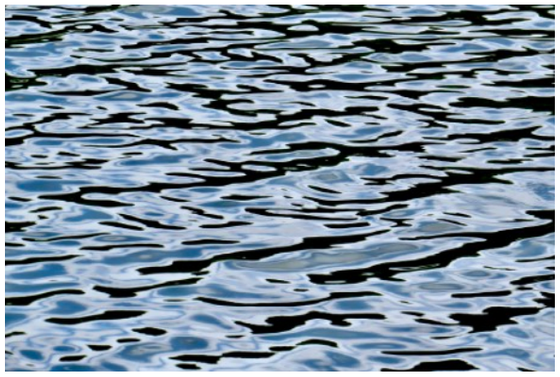
異界のなかで
目覚めるためには
世間の身と心を去らねばならない

夢みることだ
己の宇宙を夢みることだ

異界のペルソナをはなれ
現実を覆うヴェールをひらき







※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3390　2023.12.20

言葉は
渾沌から
世界を分け

私たちは
その分けられた世界で
生きている

言葉は
闇を照らす
光にもなるが

照らされた世界の
外からは
閉ざされてしまう

しかも照らされた世界は
その言葉を通してしか
見えなくなる

見えないならば
見るべく
言葉を変容させることだ

沈黙さえも言葉にし
世界を分ける言葉を
世界を結ぶ言葉にして

※愛媛県松山市北条・波妻の鼻にて

☆photopos-3391　2023.12.21

とほほ
のときは
とほほになって
とほほのままに
とほほを生きて
とほほを遊ぶ

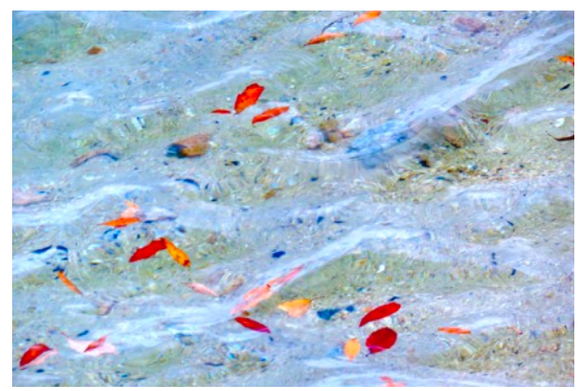
とほほが
ほほほになるまで

ぐずぐず
のときは
ぐずぐずになって
ぐずぐずのままに
ぐずぐずを生きて
ぐずぐずを遊ぶ

ぐずぐずが
くすくすになるまで

ららら
のときは
らららになって
らららのままに
らららを生きて
らららを遊ぶ

らららが
わらわらになるまで



※愛媛県松山市北条・波妻の鼻にて

☆photopos-3392　2023.12.22

詩は殺人兵器だ

「一篇の詩が生まれるためには、
　われわれは殺されねばならない
　多くのものを殺さなければならない」

という詩を書き
それにもかかわらず
書き続け生きつづけた詩人がいたが
なにを殺さなければならなかったのだろう

それはわれわれから自由を奪い
閉じ込めてしまっている意味をだろう

言葉とともに意味が与えられ
それらはすでに
われわれの一部となってしまっているから
われわれはわれわれ自身でもある
意味を殺さなければならないのだ

けれど詩という殺人兵器は無力だ

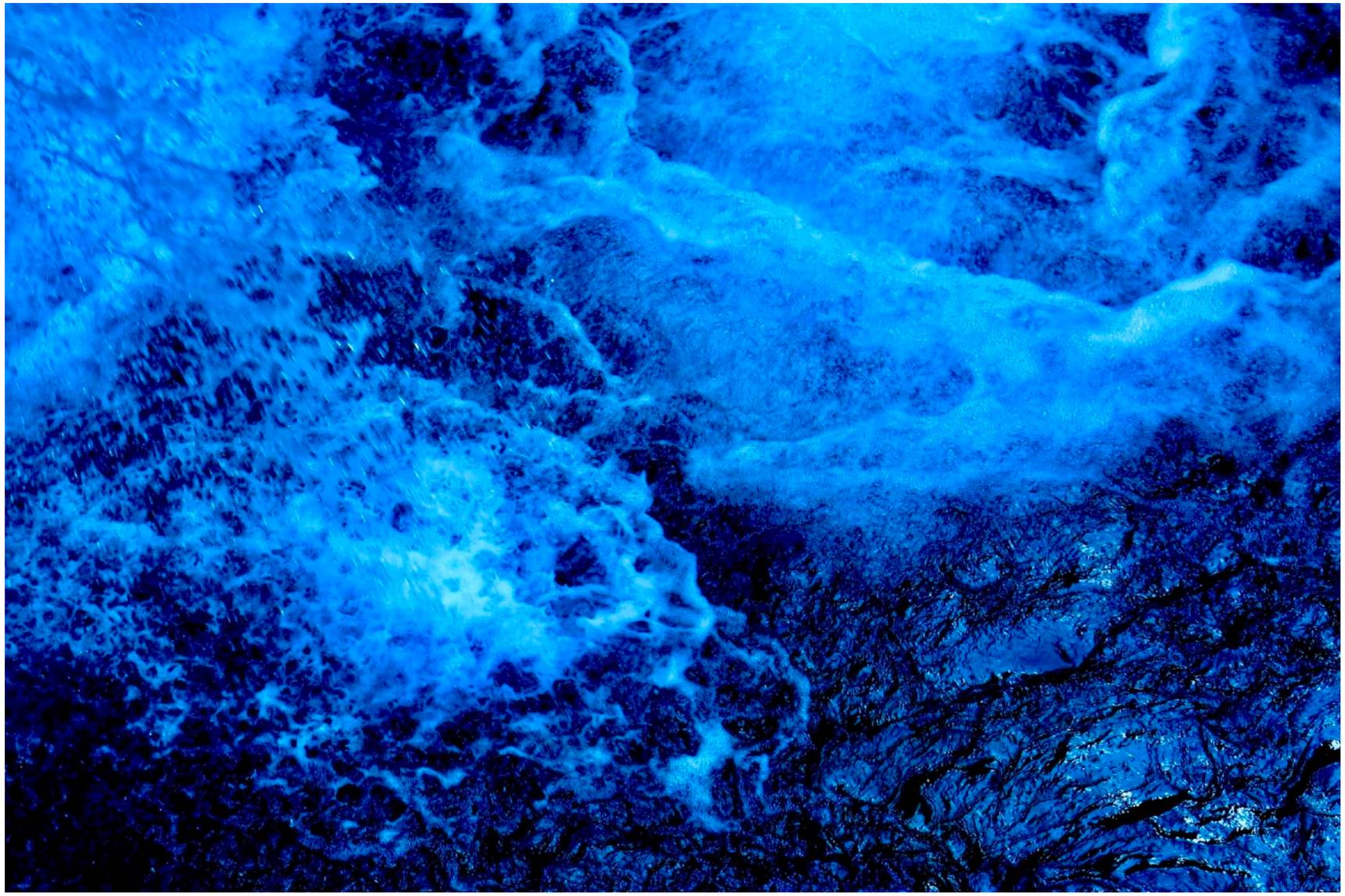
教えられた意味は強大で
その前では詩の言葉など
風のそよぎほどでしかない

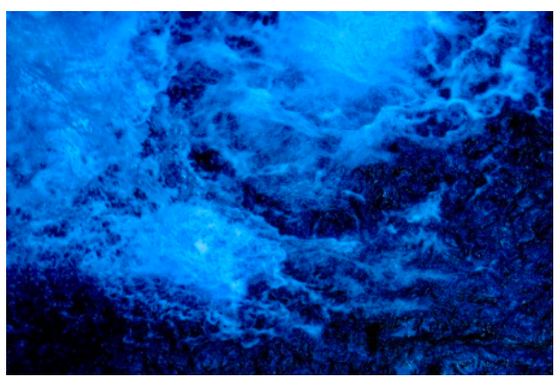
それを感じられる力さえも
いまや教えられた意味によって
奪われてしまっている

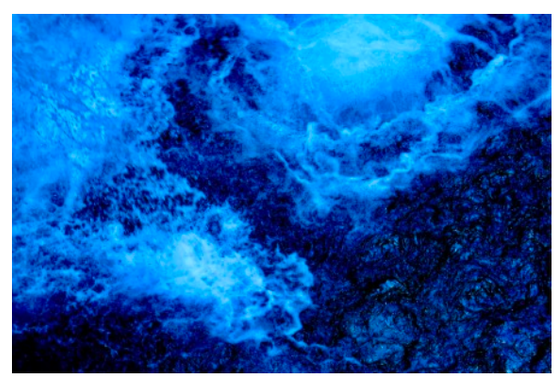
イエスが与えた剣としての言葉も
教えられた意味を殺す武器だったのだが
十字架の上で殺されてしまったほどだ

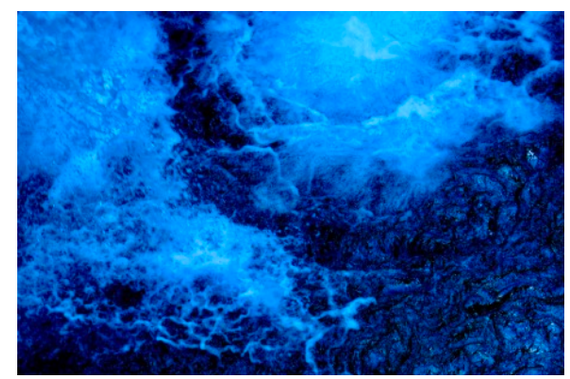
ゆえにわれわれは
あらたな剣を持たねばならない
与えられた意味を
それと知らず笑いとばしてしまう剣だ

その剣は決して力強くはないが
脆く折れてしまうことなく生き延びて
われわれの魂の深みで
植えられた種のように静かに育つ言葉
常に新たな意味を生む
ポエジーという武器である









※愛媛県久万高原町・八釜の甌穴群にて

☆photopos-3393　2023.12.23

考えるのは
ひとりじゃない

わたしは
もうひとりの
わたしと
対話する

考えは
ひとつじゃない

わたしは
もうひとりの
わたしの考えを聞く

考えは
問いになる

正しさは
ひとつじゃない

わたしは
正しさを問い
もうひとりが
その正しさを問う

わたしは
もうひとりの
わたしと
友情でむすばれている

わからないことは
わからないとし
できないことは
できないとし
してはいけないことは
してはいけないとする

けれど
もうひとりの
わたしが
考えなくなるとき
わたしもまた
考えることができなくなる

※高知県四万十市・黒尊渓谷にて

☆photopos-3394　2023.12.24

なんのために
生まれてきたのか

わたしという現象は
よくわからないから

どんなところに生まれても
教えこまれたような目的はもたない

人の上にも下にも赴かず
どんなに後ろ指を指されても
あえてする努力はしない

世の声から離れ
だれにも気づかれないよう
自由のために遊んで生きる

若くても
早すぎることはなく
年をとっても
遅すぎることはない
やりたいことへと向かう

なんのために
生まれてきたか
たとえその「ために」が
わかるときがこなくとも

「ために」にとらわれることなく
わたしという現象を生きていく

※愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-3395　2023.12.25

わたしが
世界に生まれる

すると
わたしは
世界にひらかれ
わたしは変わり
世界も変わる

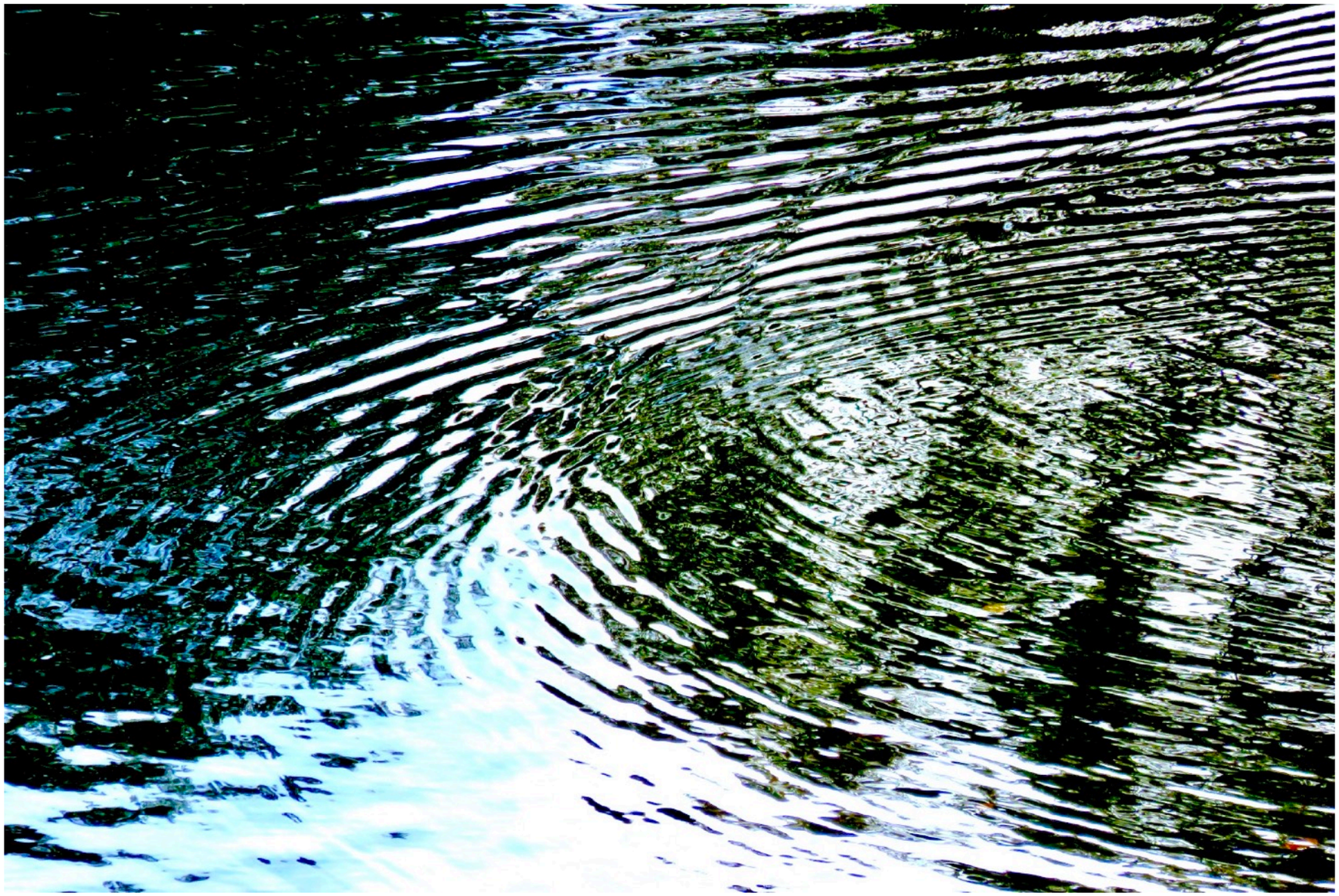
わたしは
わたしに
閉じ込められてはいない

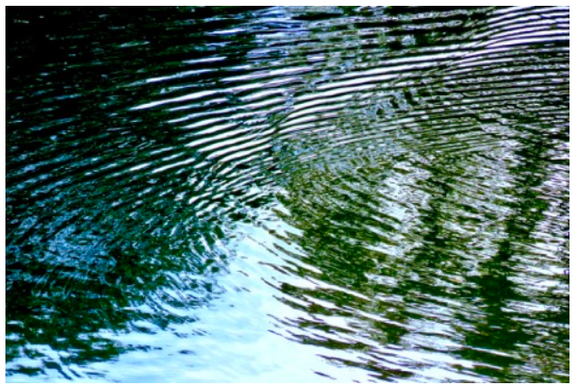
わたしは
わたしから出て
わたしに戻り
それを繰り返しながら
わたしになる

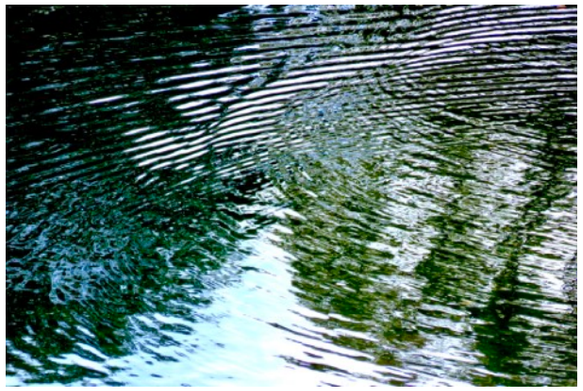
わたしは
わたしだけれど

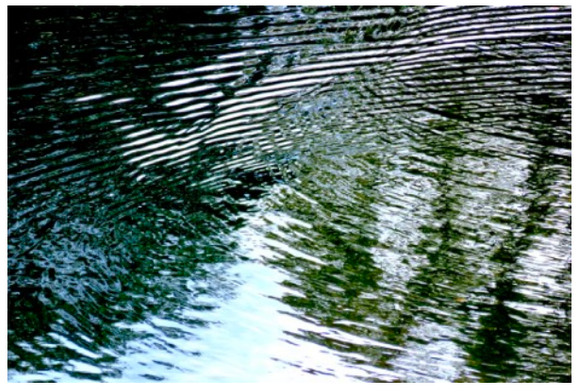
わたしは
わたしのままでは
いられない

わたしは変わる
変わりつづける
世界とともに









※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3396　2023.12.26

迷路で踏み迷ったときは
出口を探すよりも
最初の道へ戻る

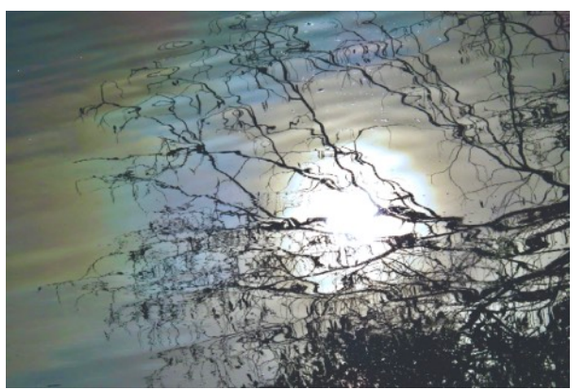
どこで間違ったのか
分かれ道を溯っていく

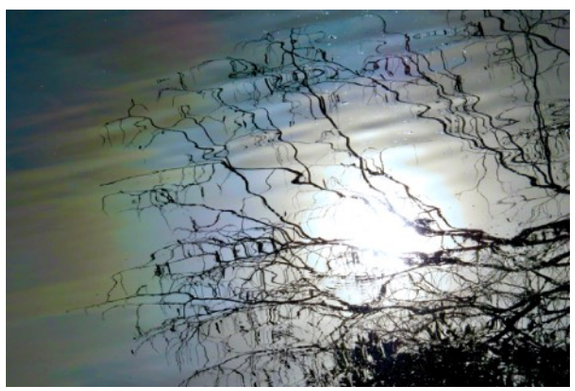
最初の道が
わからなくなったときは
複雑に考えることをやめ

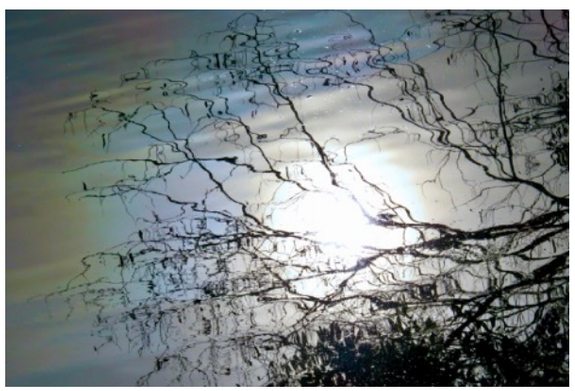
思惑
利得
見栄
虚飾
枝葉

そんな
余計なものを
ひとつひとつ去っていき
いちばん大切なものを見つける
それが出口ともなる

そのとき
迷路そのものも
消えてしまっていることに気づくだろう







※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3397　2023.12.27

わたしたちの眼には
単衣（ひとえ）にしか見えないが

十二単衣のように
ひとの姿は
さまざまな衣が重ね合わされ

身体や魂や霊の
ひとつひとつの衣は
わたしたちの成長にあわせ
関係しあいながら
変わりつづけている

たとえ身体のひとつは老いていっても
魂や霊は成長を止めることはない

アンチエイジングへのとらわれは
見せかけの身体のひとつを犠牲にして
魂や霊の成長を退行させたりもする

若さはひとつの恵みだが
その恵みはあらたな成長への
豊かな養分となってはじめて生かされる

眼は眼を超え
見えない衣を観ることができる
そうすることではじめて
人間存在の秘密へと誘われてゆく

※愛媛県総合運動公園にて

☆photopos-3398　2023.12.28

記憶は夢か

夢だとしても
わたしは
その夢を生きている

わたしという記憶に
ささえられ導かれ
それゆえにこそ
とらわれ縛られながら
わたしは生きている

わたしは
わたしの記憶を生きているが
それはわたしの記憶だろうか

記憶は永遠だとしても
それは誰の記憶なのだろうか

夢かもしれない記憶を
わたしは生き
これからも生きていくだろう

あらかじめ記憶を与えられた
レプリカントの物語があった

レプリカントはその記憶を
じぶんのものとして生きてきたが
それが与えられたものだと知り
底のない深い悲しみとともに死んでゆく
その悲しみはどこへゆくのか

わたしもまた
そんなレプリカントかもしれない
そんなことを考えてみる

その悲しみと
そしてどこか不思議な
記憶から自由になれる安らぎと･･･

※愛媛県松山市・重信川にて

☆photopos-3399　2023.12.29

死は眠りに似ているが
むしろ霊の覚醒であるように
休むことは
眠りに似ているが
むしろ非日常への覚醒である

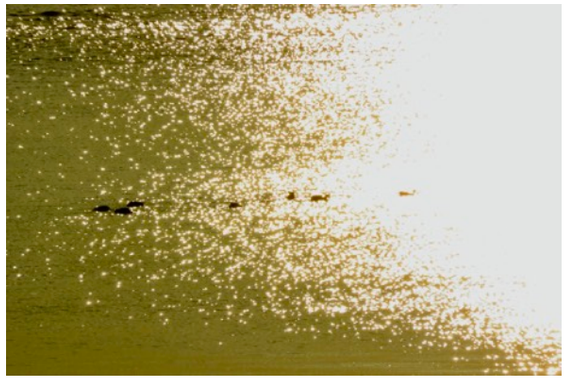
けれどその覚醒は
体とともにありながら
生において
充たされていなければならない

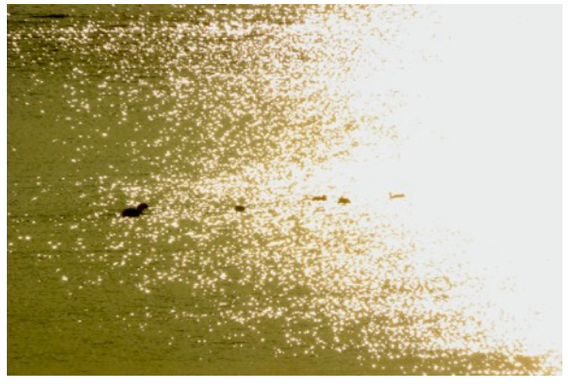
光が
闇のなかでこそ
輝き

永遠が
時のなかでこそ
顕れ

神が
私のなかでこそ
詠い

生と死
目覚めと眠り
刹那と永遠が
ともにむすばれるように





※愛媛県松山市・重信川河口にて

☆photopos-3400　2023.12.30

語りえぬものについては
沈黙しなければならないとしても

沈黙は
言葉の沈黙であり
世界の沈黙ではない
世界はひらかれている

わたしの語りえぬものについては
沈黙しなければならないとしても

沈黙は
わたしの言葉の沈黙であり
わたしの世界の沈黙ではない
語りえぬ世界はひらかれている

わたしは
わたしの世界を生きている

このわたしがいなくなったとき
その世界が消えるとしても
世界のすべてが
消えるわけではないだろう

このわたしの世界があり
このわたしの世界ではない世界がある

世界は幻であるという
それは世界が
わたしの現実を映し出しているからだ

わたしの現実があり
わたしの現実ではない現実がある

世界にはそうして
投影された現実が重ね合わされ
そこでわたしたちは語り合い
そして沈黙しあっている

同じ世界を求めているのか
違う世界であることを
確認しあっているのか

世界という夢は
謎を湛えながら現象している

＊愛媛県松山市・重信川河口にて